

第3回: 制度会計の目的

Q7. 株主への会計報告と投資者への情報提供のどちらが重要だと考えますか？

あなたの意見を理由も含めて述べてください。

<p>僕は投資者への情報提供の方が重要だと思います。会社にとって株を発行する時の目的はお金を集めることです。しかしただ株を発行しますと言っても情報が何もなければお金を集めるのは難しいはずですが、でも逆に情報提供を正確に行っておれば投資者たちがその情報を見て投資をしてくれます。つまり会社にとっての株の発行の本来の意味をスムーズに行えるようになります。企業の将来を考えた時、投資者への情報提供が大切だと思います。</p>
<p>投資者への情報提供のほうが重要だと思います。株主は株主総会など企業の活動に口を出すことができるが、投資者は口を出すことができないし、またこれから投資しようと思っている人に情報提供することによって自分の企業に投資してくれるかもしれないから。</p>
<p>私は株主への会計報告の方が重要だと考えました。確かにより多くの会社の可能性を広げるために今後投資してくれそうな投資者への情報提供も大事だと思うけど、株主への会計報告がいいかげんで出資をやめてしまったら元も子もないと思うからです。新しく投資した人もすぐ投資もやめてしまうかもしれません。結果があつてこそその今後の伸び率だと思うので株主への会計報告の方が重要だ</p>
<p>私は、株主への会計報告が重要だと思います。理由は、その会社の株主は、社長(経営者)よりも偉い立場であり、社長(経営者)を変える権力をもっているからです。株式会社は、毎年6月末に行われる株主総会で、株主に経営状態、有価証券報告書などを報告します。そこで、株主さんと社長(経営者)が、意見を言い合い、これからの会社について、一緒に考えていく場で、とても重要だと思います</p>
<p>会社は、株主のものなので株主に対する会計報告が重要だと思います。経営者は、株主のお金を使って会社を運営している、いわゆる株主の代理人なので每期どれだけ出資されたお金を増やすことができたかを、報告する方が重要だと与えました。</p>
<p>株主への会計報告の方を重視するべきだと思う。株式会社は株主からの資金によって動いているので、株主をなくす訳にはいかない。そのためには、損益計算書などで会社の財政状態を確実に伝えていかなければならないから。</p>
<p>投資者への情報提供の方が重要と考える。企業の利潤を追求していく上で株主への会計報告も重要であるのはもちろんの事だが、既存の確保済みの資金源よりもより大きな資金源となり得る外部の投資家たちに対してプロモーションをかけた方が合理的だからだ。だが、見方によってはこれだけインターネットが普及した情報社会であることを考慮に入れると投資家たちはリアルタイムに情報を得ることができるとも言える。その反面その立場は株主においても同様であり、こういった株主、投資家をターゲティングしてくるかが重要であるという見方が取れると考えられる。こういった観点から見ると、既存の株主と投資の専門家は情報収集の点において当然バラつきはあるものの、平均的にはある程度同等な立場が取るとも言える。ゆえに彼らを差し引いた投資家たちをターゲットにした情報</p>
<p>どちらも重要だと思います。会社は株主と投資者のどれを欠けても成立できません。株主は投資者に比べて、人が少ないですがひとりひとりが持っている株の割合が多いです。投資者はひとりひとりが持っている株数が少ないが、ものすごい投資者の数がいるから、やはり欠けてはいけな存在です。それで財務会計の利害調整機能と意思決定支援機能があるわけです。</p>
<p>どちらを一つしか選べなかつたら、株主への会計報告の方が重要だと思います。投資者は投資というより投機をする人の方が多と思います。株主がひとりひとりが持っている株数が多いから、会社がいざというときに、株主に甚大な被害を及びます。投資者の持が少ないから立ち直りが相対的にやすいと思います。したがって、株主への会計報告の方が重要だと思います。</p>
<p>会計報告の情報提供は重要だと思います。会計報告とは会計処理の面でも、財務諸表の表示の面でも、考えなくてははいけません。会計処理の面とは「重要性に乏しいの簡単な方法で帳簿をつけよう」という場合です。表地面とは「重要性がないので他の科目にまとめて報告しよう」という場合です。</p>
<p>株主への会計報告も重要であると思うが、私は投資者への情報提供の方が現代では、最も重要ではないかと思う。なぜなら、今回の授業で、現代においては、株主への会計報告だけではなく、潜在的な株主も含めた出資者がその企業の株を買うか買わないかの意思決定をすることが大きな目的になっているからである。企業は、会社を大きくしたり、利益を上げたりする目的をもっているの、常に出資者を増やしたいと思っているはずである。そのためには、出資者(投資者)を増やし投資する金額を増やしていかなければならない。それ故に、投資者への情報提供の方が重要だと私は考え</p>
<p>投資者への情報提供を重視するべきだと思います。本来株主とはその対象となる企業に対して出資した人の事でただ株を保有し、大半が授業中先生も述べていたように自分の利益がその会社の利益より重要な人が多いです。そして大半の人がその対象となる会社が経営が悪いと判断したらすぐに株を売ってしまいます。それに対して、投資家とは株だけではなく、債権や不動産、金など“資産”に投資する人です。なので、投資家の範疇に、株主は取り込まれる形となります。ということで当然会社にとっては株主よりは投資家の方が会社に及ぼす影響が大きいので投資家の方を優先して情報提供するべきでしょう。しかし、株式会社は議決権のある株主に対しては招集通知を年1回以上は発送して株主総会を開催して決算報告と利益処分、役員改選等総会議決または報告が義務付けられているので上記で述べた株主とは議決権がなく経営に口出しができない人に対しては会計報告</p>

投資者への情報提供が重要だと思います。投資者は公社将来の発展前景に関心している。公社の配当状況とか、会社多く資金で生産規模を拡大できるか、すべて情報提供から考える。投資者は株や債権の購入によるキャピタルゲインや配当、利息収入などを目的にさまざまな企業に投資を行うが、投資判断にあたっては投資先企業についての情報が不可欠である。ここで必要とされる情報にはさまざまなものがあるが、特に企業の財務に関する情報は重要である。

株主への会計報告が重要だと思います。株主は経営者の業務執行が誠実に実施されている。株主は株式会社所有する株式数に応じて株主権をもつ、だから会社の経済活動状況は株主に報告する必要がありだと思います。

企業は継続することを前提にしていることが会計公準にはあるように、経営者もいつかつぶそうと思って日々経営しているわけではない。とすると、継続し続けるためには、成長や拡大は必要不可欠であり、事業拡大のためには、資金が必要となる。自己資本や借入でも足りない時増資を考えるが、増資しようと思っても投資者が投資したいと思える企業でないと資金は集まらない。となると、日々の株価はその企業のみりよを表す一つの指標となると考えられる。その株価を左右するのは、企業の出す財務諸表をはじめとする会計、企業情報なので、また、財務会計の重要な機能である情報提供機能が投資意思決定に対する有用性を含んでいるということからも、現代の社会経済においては、証券市場での株の売買が重要視されており、投資者への情報提供の重要がうかがえる。ただし、大きな企業ほど、一つの会社だけで成り立っているわけではなく、多くの関係会社(親・子etc)からグループ企業が成立しており、その中で経営に参画する、大株主というと、証券市場の売買によって日々変化するというよりは、だいたい決まっていると思うので、その人への会計報告が大切ではないというつもりはなく、ずっと自分の企業を見ている人への報告も大切なものだと思う。